

**環境・エコ意識はこの10年で25%低下。しかし行動は習慣化。
背景には、効果を実感できないという課題が。
【生活者実態調査】<花王 生活者研究センター調べ>**

花王株式会社「生活者研究センター」(※1)では、2008年から、生活者の環境・エコへの意識と行動について継続的に調査を実施。

その結果、環境・エコへの関心は、東日本大震災直後、一時的に上昇しましたが、その後は低下傾向が続いており、「環境をよくするために何をしたらよいのかわからない」と感じる人の割合が徐々に増加しているのが明らかになりました。

一方、生活者の意識と行動の変化をトレンドで追っていくと、社会動向に応じた変化が見られます。2008年のリーマンショック後には、生活防衛のための節約が結果として環境に良い暮らし方に(節約エコ)。2011年の東日本大震災後には、国の要請を受けて「節電・節水」意識が社会に広がり暮らしを切り詰め(震災エコ)、2013年には好景気を背景に、環境・エコを自分らしく楽しむ姿があらわれ始めました(自分らしいエコ)。そして2016年以降には、目的意識は薄れながらも、節電、詰め替え商品の利用など一部の環境・エコ行動は、「社会マナーとして」、「習慣だから」などの理由で自然と定着していました(習慣エコ)。

また近年では、「自分ひとりの日々の行動が、果たして環境改善に結びついているのか?」という疑問を感じながら行動している生活者も多く、効果を実感できないことが環境・エコへの関心を低下させるひとつの要因になっているとの実態もみえてきました。

■社会の動きと生活者の変化



【主な調査結果のポイント】

- 環境・エコへの関心は低下傾向が続く
- 環境・エコ行動の変遷
- 日々の行動の効果を実感できないのが課題

【調査概要】

「生活者の暮らしに関わる意識と行動」

◎2008年、2010年、2011年、2012年、2014年、2016年（いずれも9月）

インターネット調査、郵送調査／首都圏在住 20～60代男女／1,735人、3,734人、1,515人、3,509人、3,443人、3,457人

「生活者の環境意識と行動実態」

◎2013年6月／家庭訪問インタビュー／首都圏在住 20～40代女性／12人

◎2017年7～9月／家庭訪問インタビュー／首都圏在住 20～30代女性／6人

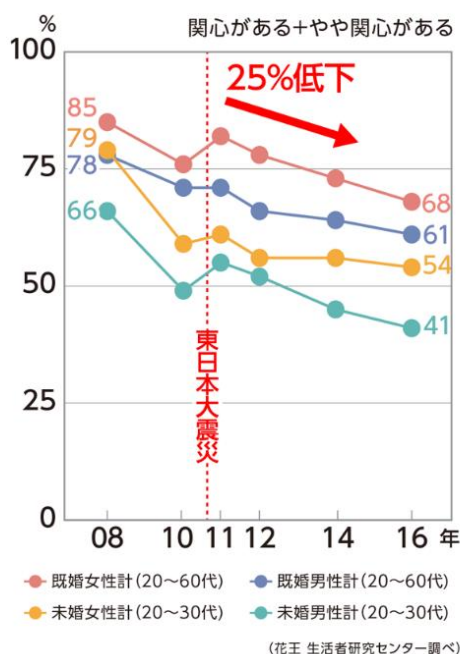
「暮らしに関するアンケート」

◎2017年11月／郵送調査／首都圏在住 20～70代女性／535人

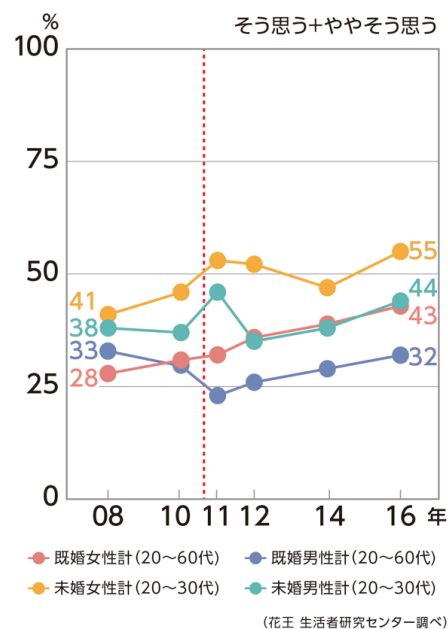
● 環境・エコへの関心は低下傾向が続く

2008年の調査開始以降、環境・エコへの関心は、北海道洞爺湖サミット（※2）がおこなわれた2008年の値をピークに、その後男女共に低下。2011年の東日本大震災直後に一度高まりますが、再び低下傾向が続いています。全体では、この10年で25%低下していました。

■ 環境・エコへの関心



■ 環境を良くするために何をしていいかわからない



●環境・エコ行動の変遷

ふだんの生活者の行動に着目すると、節電、ごみの分別、詰め替え商品の利用などは7割以上の高い実施率を維持しています。

■ふだん実施していること

(%)	使っていない部屋の電気はこまめに消す	冷暖房の設定温度は控えめにする	LED電球を使っている	入浴時はシャワーをこまめに止める	ごみをきちんと分別する	洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を購入	エコバッグを持ち歩く
08年	84	78	—	—	88	84	65
10年	78	73	—	—	78	80	70
11年	89	82	—	—	83	85	71
12年	84	77	37	—	80	79	72
14年	81	66	51	64	74	78	73
16年	79	64	57	61	72	75	69

20～60代既婚女性
(花王 生活者研究センター調べ)

●日々の行動の効果を実感できないのが課題

「行動の効果が知りたい」、「何をすれば効果が出るかわからない」といった声が多く聞かれ、行動の環境改善への効果を実感できないことが関心を低下させるひとつの要因になっていると考えます。

自分ひとりの行動がどう改善に結びつくのかわからない。冷房を1℃上げたら、1分水の流しっぱなしをやめたらなど、何をどうしたら役に立つのかわがわかったら心掛ける。
(20代女性、既婚)

ごみの細かい分別を守っているつもりだが、分別されたものがどのようにリサイクル、焼却、廃棄されているのかが気になる。
(30代女性、既婚)

一人ひとりの取り組みがどの程度役に立っているのか、具体的な数値が見えないと、努力しようという気持ちもわなくなってしまう。
(40代女性、既婚)

自分の行動がどの程度エコに役立っているのか、リサイクルや環境改善へつながっているのかの情報量が少ない。
(70代女性、既婚)

「これからの環境・エコ」や詳しい情報はこちら
くらしの研究「くらしの現場レポート」

<http://www.kao.co.jp/lifei/life/report-45/>

<http://www.kao.co.jp/content/dam/sites/kao/www-kao-co-jp/lifei/report/pdf/45.pdf>

(2018年6月掲載)

■体験しながら学んだ“今すぐできるエコな暮らし”

神奈川県川崎市にある、身近な環境・エコ行動について学ぶことができる体験型環境学習施設「かわさきエコ暮らし未来館」を花王研究員が見学した際のレポートを「達人コラム」で紹介しています。環境を守るために「今、私たちができること」とは？



くらしの研究「達人コラム」

<http://www.kao.co.jp/lifei/life/column-44/>

※1 花王株式会社「生活者研究センター」 <http://www.kao.co.jp/lifei/about/>

「生活者研究センター」では、花王グループの使命である「よきモノづくりを通じて人々の豊かな生活文化へ貢献すること」の実現をめざし、生活者ひとりひとりの暮らしを見つめた生活者研究を行っています。生活現場での観察と対話を重ねながら、行動に表れない本音、説明できないこだわりなど、行動の裏にひそむ「おもい」まで読み解いて、課題を発掘し、商品やコミュニケーション開発に活かすとともに、生活者研究のウェブサイト、花王「くらしの研究」から、広く社会に発信しています。

花王「くらしの研究」 <http://www.kao.co.jp/lifei/>

※2 北海道洞爺湖サミット

2008年7月に北海道虻田郡洞爺湖町でおこなわれた第34回主要国首脳会議。環境・気候変動などを中心に議論された。

■本リリース（MKニュース）に関するお問い合わせ先



花王株式会社 商品広報センター

〒103-8210 東京都中央区日本橋茅場町1-14-10 TEL:03-3660-7259 / FAX:03-3660-7848

<http://www.kao.com/jp/> ©Kao Corporation

※本資料記載の記事・写真の無断転載・複写を禁じます。リンク先は本件掲載時の情報であり、予告なく変更になる場合がございます。